

新たな「出会い」による成長の加速を ～2024年の年頭所感～

日本銀行 福島支店 支店長

なかしま もとはる
中嶋 基晴



明けましておめでとうございます。福島県の皆さまにとりまして、本年が素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年の福島県経済を振り返りますと、海外経済減速の影響などから一部に弱めの動きはみられましたが、景気は緩やかなペースで着実に持ち直してきました。新型コロナウイルス感染症の分類変更を受けた人流増加もあって、個人消費は回復しています。生産面では、これまで重石となってきた供給制約の影響が和らいでいます。こうした流れが続くことで、本年の福島県経済は、回復に向けた歩みを進めていくと考えられます。その足取りをより確かなものとするためには、物価上昇に負けない賃上げの実現が重要です。また、その帰趨を占ううえで、人件費を含めたコストを価格転嫁する動きの広がりやその程度が注目されます。

さて、昨夏の着任以降、県内各地をお邪魔して、企業や行政の方にお話を伺ってきました。皆さま、「福島復興」という思いを共有され、それぞれ大変な尽力をされておりました。そうした思いが、福島の誇る高品質の一次産品、高い技術力に裏打ちされた工業製品、県民の皆さまの温かさそのままのサービスの源泉にあることを強く感じました。加えて、県内を巡っていますと、福島が豊かな自然の織り成す風景や趣深い歴史・文化の宝庫であることを強く実感します。と同時に、この技術、この政策、この資源をもっと多くの人に知ってもらいたい、使ってもらいたいという声も多く耳にしました。

かつて師事した一人の先生は、長年、専門分野を跨ぐ形で、毎日の生活では会うことがない人同士を繋ぐ「場」の提供に取り組まれておりました。キャッチフレーズは「偶然の出会いからは必然の出会い」です。きっかけはささやかな偶然でも、一つの出会いが思わぬ化学反応を起こし、後から振り返ってみれば運命だったとしか思えない、といった経験をお持ちの方も多々お見受けします。福島への熱い思いを抱く企業や行政の方々、技術、或いは魅力ある観光資源等が既存の枠を越えて繋がることは、それ自体が新結合、イノベーションです。本年、皆さまに多くの「偶然の出会い」が生まれ、成長、そして復興の加速に繋がっていくことを期待しています。

私ども日本銀行も、福島県の皆さまの取組みをしっかりとサポートしてまいりますこととお誓いして、年頭のご挨拶とさせていただきます。